

# ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオの予防接種について(四種混合)

四種混合(DPT-IPV)ワクチンは、ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオの四つの病気を予防するワクチンです。

## ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオについて

### (1) ジフテリアについて

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。感染は主にのどですが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病2～3週間後には、菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがありますので、注意が必要です。

### (2) 百日せきについて

百日せき菌の飛沫感染で起こります。百日せきは、普通のカゼのような症状ではじまり、続いてせきがひどくなり、顔を真っ赤にして連続的にせき込むようになります。せきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。通常熱はでません。乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり(チアノーゼ)、けいれんが起きることがあります。肺炎や脳症などの重い合併症を起こしたり、乳児では死亡することもあります。

### (3) 破傷風について

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、筋肉のけいれんを起こし、治療が遅れると死亡することもあります。患者の半数は、本人や周りの人では気がつかない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。また、母親が免疫をもっていれば、出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

### (4) ポリオについて

ポリオは、わが国でも60年代前半までは流行を繰り返していましたが、現在は、予防接種の効果で、国内での自然感染は報告されていません。

ポリオウイルスはヒトからヒトへ感染します。感染したヒトの便中に排泄されたウイルスが口から入り、のど又は腸に感染します。感染したウイルスは4～35日間(平均7～14日)腸の中で増えますが、ほとんどの場合は、症状が出ず、免疫が得られます。症状が出る場合、ウイルスが血液を介して脳・脊髄へ感染し、麻痺を起こすことがあります。

ポリオウイルスに感染すると100人中5～10人は、カゼ様の症状を呈し、発熱、頭痛、嘔吐があらわれます。感染した人の中で、約1,000～2,000人に1人の割合で手足の麻痺を起こし、一部の人には、その麻痺が永久に残ります。また、麻痺症状が進行し、呼吸困難で死亡することもあります。現在でも、アフリカ、アジアの一部ではポリオの流行がありますので、予防のためポリオワクチン接種を続けていくことが必要です。

## 四種混合(DPT-IPV)ワクチンについて

四種混合ワクチンは、平成24年7月27日に承認されたワクチンで、百日せきの不活化(死菌)ワクチン、ジフテリア・破傷風のトキソイド(毒素を免疫するもの)及び不活化ポリオワクチンの混合ワクチンです。

## 副反応

臨床試験において、承認時までには得られた主な副反応は、接種部位の副反応として、注射部位の紅斑・硬結・腫脹など、注射部位以外の副反応として、発熱・気分変化・下痢・鼻漏・咳嗽・発疹・食欲減退・咽頭発赤・嘔吐などが見られました。また、重大な副反応として、極めて稀にショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれんがみられることがあります。

次のページへ続く→

# ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオの予防接種について(四種混合)

ヒブ(ヒソ)

小児用肺炎球菌

B型肝炎

四種混合

BCG

日本脳炎

## 対象者及び接種スケジュールについて

### 接種対象者(対象年齢)

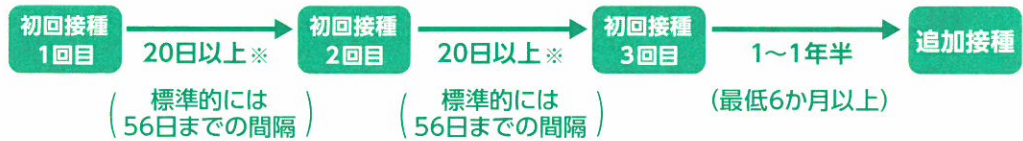
1期初回接種(3回)

生後3か月～7歳6か月未満の者

1期追加接種

※対象年齢を過ぎると、公費での接種は受けられなくなります。

1期(遅くとも7歳6か月未満に完了)



※ワクチンを接種した日の翌日から起算してください。

※1期初回接種(3回)を確実にいき、基礎免疫を作ることが重要ですので、忘れずに受けましょう。

## 接種時に持参するもの

- ① 四種混合予防接種予診票
- ② 母子健康手帳(接種歴を確認するとともに、予防接種を受けたことを記録します。)